



しし座の物語

昔々、ネメアの森に大きなライオンが居りました。森には、たくさんの生き物がすんでいて、動物も植物もみんな仲良く協力して、美しく豊かな森を守っていました。

ある日のこと、森に人間が迷い込んできました。ライオンが、道を教えてやろうと人間の前に姿を現すと、巨大なライオンを見て人間はビックリ！ 一目散に逃げだしました。結果的に彼は森を抜け、無事、村へ帰ることができました。しかし、その後、村人たちの間に森にいる大きなライオンの噂が広まります。しかもその噂、はじめは『大きいライオン』という話だったのですよ。それが、いつのまにか『人食いライオン』という話に変わって伝わってしまったのです。

人食いライオンを退治するべく、勇者ヘルクレスがやってきました。しかし、大きなライオンには、弓矢もこん棒も効きません。困ったヘルクレスは、ライオンに組み付き、首を絞めつけました。そんなヘルクレスにライオンは語りかけます。「勇者よ。何故、おまえは私を退治したいのだ？ 私は、森で静かに暮らしているだけだ。人を襲ったことはないぞ」ヘルクレスは、応えます。「ライオンよ。お前の大きな姿に人は恐怖するのだ。私は、人の恐怖を取り除くためにやってきた」ライオンは静かに目を閉じ、ヘルクレスにメッセージを託しました。「勇者よ。最後に私の願いをみんなに伝えて欲しい。『これからは、森の仲間と人とは協力をして、美しい豊かな森を守ってくれるように…』と」ライオンの亡骸を抱いたヘルクレスの頬で一筋の涙が光りました。こうしてライオンは天に召され、星になったのです。これが、しし座です。

あなたの読んだ本には、「しし座は乱暴な人食いライオン」と書かれていたかもしれません。でも、本当に悪いライオンだったら神様が星にしてくれるわけないって、思いませんか？

(解説員：小野 夏子)